

フードバンクを活用した食品ロス削減啓発事業

フードバンク推進実行委員会

(特定非営利活動法人フードバンク福岡、福岡市環境局事業系ごみ減量推進課)

1 共働のきっかけ・必要性

フードバンクは、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなった食品（いわゆる、「食品ロス」）を集め、食べ物を必要とする施設や団体へ無償配布する活動であり、食品ロス削減という環境的側面の問題と、福祉的側面の問題を同時に解決できる活動として期待されています。

(1) NPOが事業を提案した理由

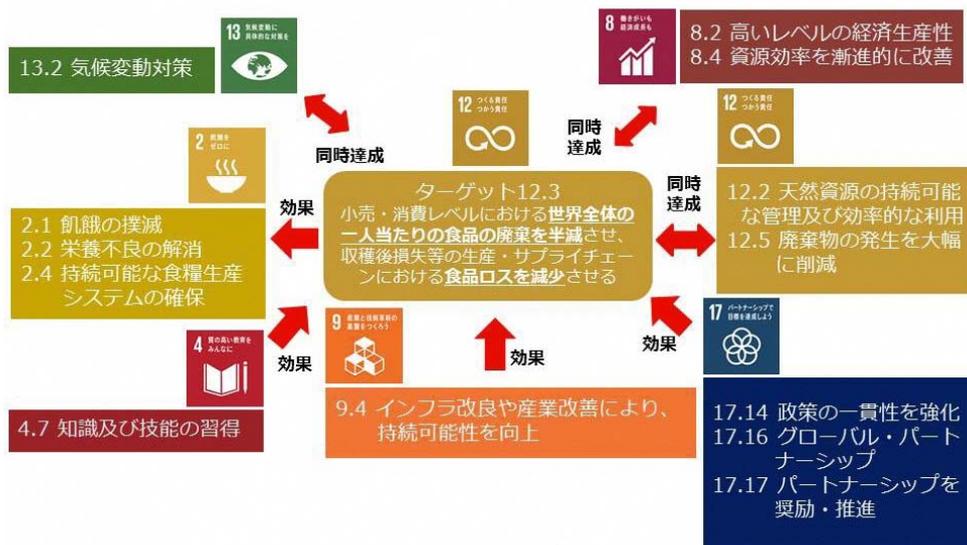
食品ロス削減は、SDGsのターゲットとしても挙げられる世界的課題であり、福岡市の課題でもあります。その一方で、食べ物を必要としている人たちが増え、特に子どもの相対的貧困は大きな社会課題となっています。

そうした中、フードバンクが注目を集めるようになりました。しかしながら、日本全体のフードバンクが取り扱う食品量は年間4,000トンであり、日本の食品ロス全体量（年間643万トン※）の0.06%にしかすぎません。また、福岡市でのフードバンク活動は平成28年度に開始したばかりで間もなく認知度が低いため、市民や市内企業への普及・啓発による活動の定着と拡大が必要です。

共働事業により、フードバンクを活用した食品ロス削減に前向きに取り組む事業者が増え、多種多様な食品の提供を受けられることができるようになるとともに、市民意識の醸成にもつながりボランティア参加や企業からの寄付が得やすくなることが期待できます。

また、フードバンクが福岡市の循環型社会の一部として有効に機能することで福岡市の課題でもある食品ロス削減を推進することができると考え、提案に至りました。

※農林水産省平成28年度推計



出典：農林水産省ホームページ (http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/)

(2) 市担当課が事業に取り組む理由

福岡市において、事業系ごみの量は全体の半分を占め、その減量・リサイクルが重要な課題となっています。フードバンク活動の推進に取り組むことで、事業所から排出される食品ロスが削減できることを期待しています。

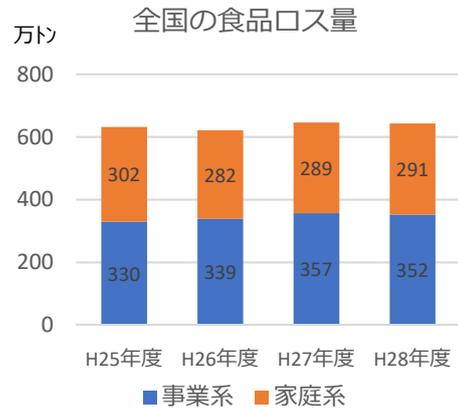
2 事業の目的

フードバンクには、事業者からの提供（フードバンク）と家庭からの提供（フードドライブ）の2通りの食品提供ルートがあります。

家庭からの食品提供では、保存状態が様々であるため保管方法による影響が少ない缶詰等、食品の種類が限られ、また、1提供者あたりの提供量が少なくなります。一方で、事業者からの食品提供では、それまでの衛生管理状態が把握しやすく、安定した品質が期待できることから生鮮食品をはじめ多種多様な食品を提供いただけるのと同時に、1提供者あたりの提供量は多くなります。

また、全国的に家庭内で発生する食品ロス量と事業所から発生する食品ロス量は約半数であり、近年横ばい傾向で減少していない状況です。

これらのことから、食品ロスの削減による循環型社会づくりの推進及び、安定的食品提供量確保のため、事業所から発生する食品ロスを対象にフードバンク活用の啓発を実施することとしました。



(農林水産省推計値より作成)

3 事業目標及び達成度

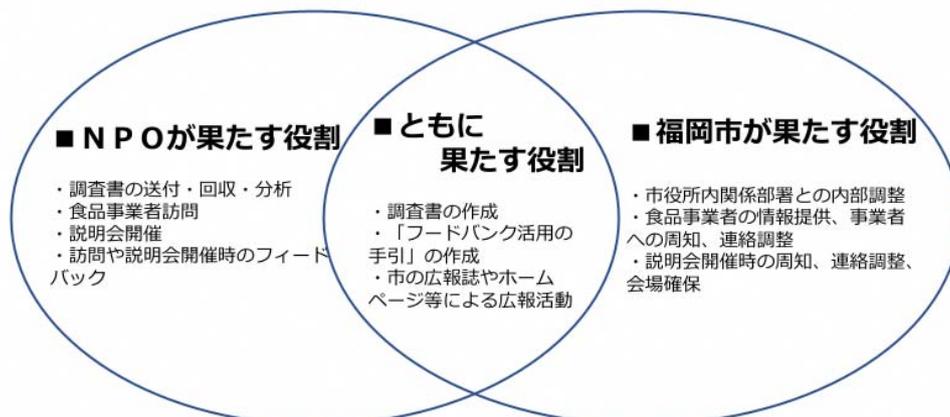
食品事業者を対象にフードバンク活用に関する調査・分析を行い、事業者の側に立った手引き（「フードバンク活用ガイドブック」）を作成し、啓発を行うことによって、フードバンクを活用した食品ロス削減による循環型社会づくりを推進しました。

本事業を通して、フードバンク福岡の食品取扱量増加及び、食品を提供する企業数の増加を目指しました。令和元年度は下表のとおり目標を達成できました。しかし、令和元年度に施行された食品ロス削減推進法の影響から、今後は各企業における食品ロス発生抑制が更に働くことが予測されるため、食品寄贈企業数の拡充が必要であると考えます。

成果指標	平成29年度実績	令和元年度目標	令和元年度実績
食品ロス削減量	44 t	80 t	85.7 t
食品寄贈企業数	60社	100社	116社

4 役割分担

本事業では、ともに果たす役割を重視して、役割分担を作成しました。それは、互いの良いリソースを共有することによって、より良い解決方法を見出していきたいと考えたからです。



5 事業内容

事業内容（1）フードバンク活用に関するアンケート調査・分析

市内食品事業者を対象にフードバンク活用に関するアンケートを行い、フードバンクに対する疑問や食品ロスの発生状況などを調査・分析する。

①アンケート作成

期 間：令和元年5月～6月に作成、7月上旬発送

調査対象数：2,000件（食品関連企業のうち、提供が期待できる製造業、卸売業などを中心に選定）

調査内容：

アンケートは、フードバンクを知らない方でも回答できるような内容とし、さらに事業者のフードバンクに対する疑問を明らかとする質問としました。

フードバンクに食品を提供している企業の声や、受取団体の写真を掲載し、関心を高める工夫をしました。

アンケートのほか、「フードバンクが取り扱っている食品の例<食品企業様向け>」を同封しました。

アンケート回答数：191件（約1割回答）

アンケート送付の効果：アンケート送付によりフードバンク活動を知り、数件の企業から食品提供の申し出がありました。



送付したアンケート

福岡市共働事業提案制度

フードバンクを活用した食品ロス削減に関するアンケート

フードバンクは、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できない食品（いわゆる、「食品ロス」）を集め、食べ物を必要とする施設や団体、個人に配布することによって、企業から出される“ごみ”の減量効果と福祉的な効果が期待されている活動になります。その活動内容や仕組みについては、まだよく知られていません。

そこで、本アンケートは、「福岡市」と「NPO法人フードバンク福岡」が共働し、フードバンクの利用に関する食品関連事業者様の課題・現状を把握し、事業者様に役立つ「フードバンク活用の手引」を作成することを目的に実施しています。

なお、本アンケートで得た内容は、本事業以外の目的では使用いたしません。趣旨をご理解いただき、ご回答をお願いいたします。

ご記入が終わりましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒で
7月31日(水)までにご投函くださいますようお願い申し上げます。



「アンケートに関するお問い合わせ」
特定非営利活動法人 フードバンク福岡
TEL：092-710-3205
FAX：092-710-3206
e-mail：fbfukuoka@gmail.com
営業時間：月・木・金の10時～16時



「共働事業に関するお問い合わせ」
福岡市 環境局 環境型社会推進部
事業系ごみ減量推進課 事業系ごみ企画係
TEL：092-711-4836
FAX：092-711-4823
e-mail：jigyokeigomi.EB@city.fukuoka.lg.jp

アンケート表紙

別紙

**フードバンク福岡が取り扱っている食品の例
<食品企業様向け>**

食品の種類	形態	温度帯
米	10、30キロ単位。古米は玄米がのぞましい	常温
肉・魚	1キロ以上	冷凍
卵、野菜・果物	段ボールやかごで、1箱～	弱冷蔵 常温
調味料(砂糖、みそ、しょうゆ、塩、たれ、ドレッシング など)	小分けされているもの、段ボール等で1箱～	常温
加工食品(総菜、カレー、ジャム、スープ など)	レトルト、缶詰、フリーズドライ冷凍食品、瓶など、箱単位。	常温、冷凍
めん	乾麺、カップ麺、箱単位。	常温
飲料	ペットボトルなど小分けされているもので、箱単位。	常温
菓子	小分けされているものや、箱単位のもの。	常温、冷凍
パン	種類はさまざま。1箱以上	常温
ヨーグルト	カップなど、小分けしてあるものが箱単位	常温、冷蔵(要相談)
アイスクリーム	小分けしてあるものが箱単位。	冷凍

*ここに記載していないものも、いただける場合があります。ぜひご相談ください。

フードバンク福岡に食品を受け取りに来る団体は、さまざまです。一団体当たりの量は少ないですが、食品を必要とする団体がどんどん増えています。用途に合った多様な食品が必要です。

例) 子ども食堂：1回に20人～100人分くらい目安。
米、調味料、冷凍肉・魚、加工食品(冷凍、レトルト、缶詰)、野菜、果物、お菓子、飲料 など

行政・社会福祉協議会：1週間程度食べられる量を1パッケージに
・災害備蓄品などすぐに食べられるもの、長期間保存ができるもの
・米、調味料、加工食品(レトルト・缶詰)、お菓子、飲料 など

福祉施設：30人～50人分くらいを目安
米、調味料、冷凍肉・魚、加工食品(冷凍、レトルト、缶詰)、野菜、果物、お菓子、飲料 など

*食品を受け取りに来る団体数は、2019年5月現在で約100団体。例えば、1キロの冷凍食品を半分の50団体に配っても、1回の配布で500キロ(0.5トン)必要となります。皆様のご協力をお願いいたします。

ご相談・お問合せ先：特定非営利活動法人フードバンク福岡
TEL 092-710-3205 FAX 092-710-3206
e-mail fbfukuoka@gmail.com

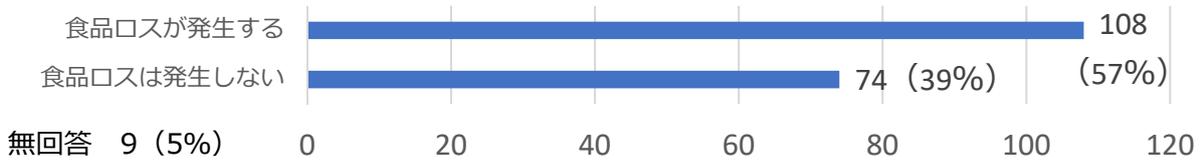
同封「フードバンクが取り扱っている食品の例」

②アンケート集計・分析

期間：令和元年7月～9月

【集計結果概要】（回答数：191）

■現在の食品ロス発生状況

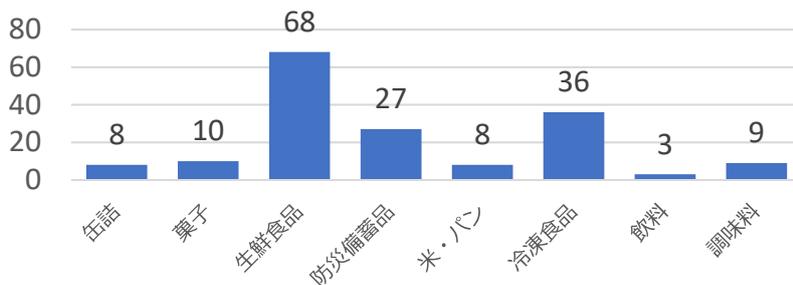


■発生する食品ロスの種類（複数回答可）



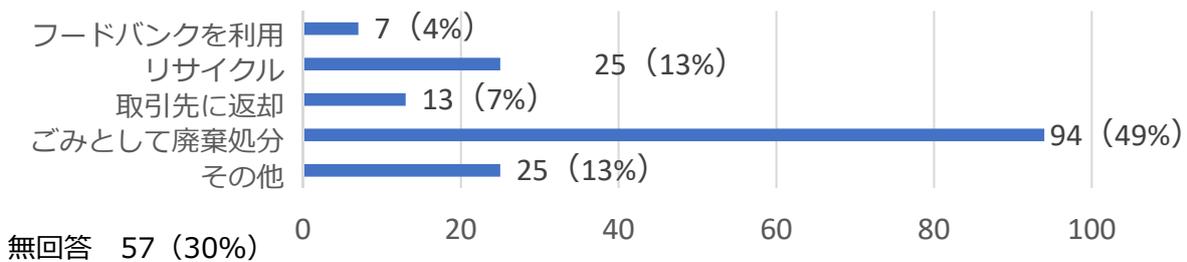
* 過半数の企業で食品ロスが発生しています。
* 発生する食品ロスのその他には、冷凍食品、調味料、菓子、水産品、総菜などがありました。

■フードバンク福岡が取り扱えないと思う食品（複数回答可）



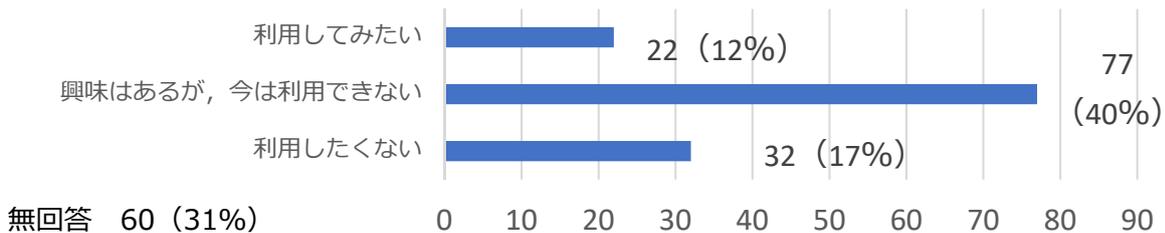
* 「生鮮食品」が最も高く、続いて「冷凍食品」、「防災備蓄品」の順でした。

■現在の食品ロス処分方法（複数回答可）



* 「ごみとして廃棄処分」（49%）が最も多く、続いて「リサイクル」（13%）とその他（13%）が同数でした。「フードバンクを利用」している事業所は約4%とごくわずかでした。

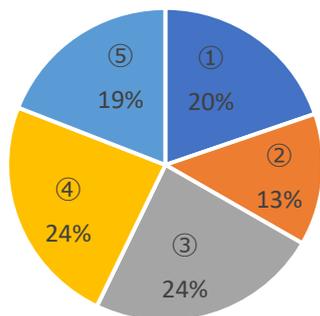
■今後のフードバンク利用の可能性



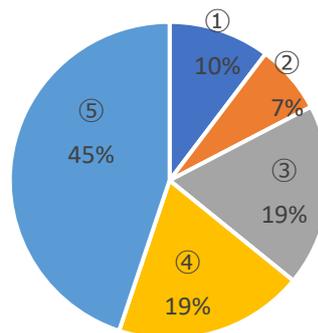
* 「興味はあるが、今は利用できない」（40%）が最も高く、「利用したくない」（17%）を合わせると過半数となりました。「利用してみたい」は12%でした。

■フードバンクを利用できない理由、利用する際の不安の程度の把握

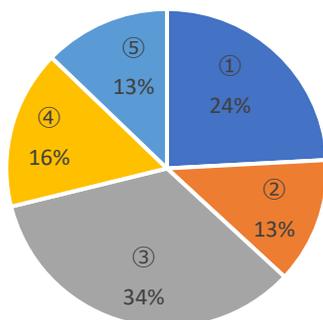
●フードバンクのしくみや内容がよくわからない



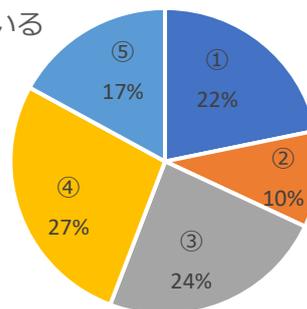
●フードバンクへの提供に適した食品ロスがない



●フードバンクを利用するメリットを感じない



●社内で食品ロス提供に対応する職員が不足している



選択肢

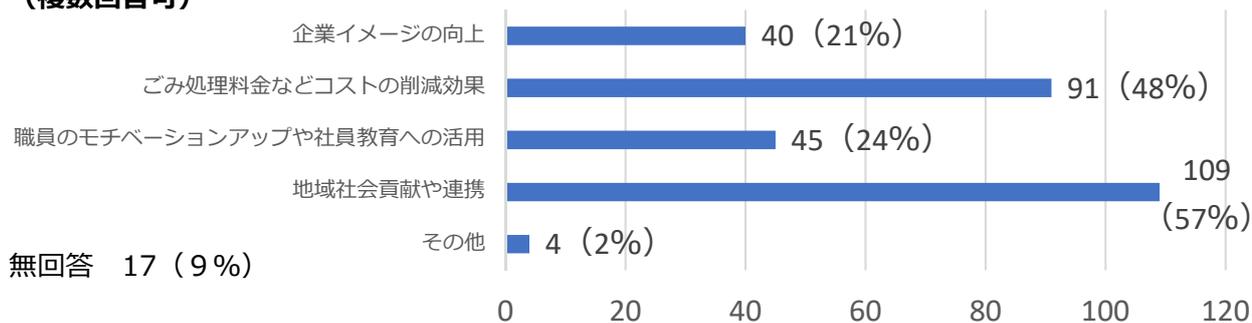
①まったくあてはまらない ②あてはまらない ③どちらでもない ④あてはまる ⑤もっともあてはまる

<その他（自由記載）>

- ・ロスの発生量が少ない。
- ・ロスの発生にむらがあり、安定して確保できない。
- ・不定期で出せない
- ・人手不足で配送までできない。
- ・賞味期限が近いチルド商品が中心であり、不定期に発生する余剰品をフードバンクとの間で誰が調整するのか。

- * フードバンクのしくみや内容がよくわからない：「あてはまる」と「もっともあてはまる」は合計43%でした。
- * フードバンクへの提供に適した食品ロスがない：「あてはまる」と「もっともあてはまる」は合計64%でした。
- * フードバンクを利用するメリットを感じない：「あてはまる」と「もっともあてはまる」は合計29%でした。
- * 社内で食品ロス提供に対応する職員が不足している：「あてはまる」と「もっともあてはまる」は合計44%でした。

■フードバンク利用に際しての期待（複数回答可）



- * 「地域社会貢献や連携」（57%）が最も高く、続いて「ごみ処理料金などのコストの削減効果」（48%）が高かった。

【アンケート調査・分析結果】

●フードバンクのしくみを周知啓発する必要性

アンケート調査から、まだフードバンク活動そのものがよく知られておらず、ごみとして廃棄されている食品が多い現状が把握できました。

一方で、フードバンクに興味はあるものの、今は利用できないと感じている企業が多くありました。その理由是多岐にわたりますが、最も重視すべきことは、フードバンクのしくみや内容が十分に知られていないということだと分かりました。また、企業内の問題として「フードバンクを利用するメリットを感じない」、「社内で食品ロスの提供に対応する職員が不足している」がありました。つまり、フードバンクのしくみや内容がよく知ってもらうと同時に、それぞれの企業の課題を解消する必要があります。従って、本年度作成する「フードバンク活用の手引」では、フードバンクの仕組みを伝えることに重点を置いて作成します。また、企業がフードバンクを利用するためには、企業の課題を解消する必要があります。

●フードバンクの提供に適した食品ロス

フードバンクに適した食品がないと回答している企業が多く、自由記載欄からは、「少量」や「不定期」などの理由で提供できないとの回答がありました。しかしながら、現在フードバンク福岡では、突発的に生じた食品ロス（台風等での配達不能など）や、年に数回生じる食品ロス（お中元・お歳暮）、生産中止になった食品、季節食品、生産ロットの問題から生じる余剰食品の定期的な提供などを受けています。こうしたことから、「手引き」の中でいただける食品や量、種類、頻度などを説明するとともに、企業側の誤解を調査していく必要があります。

また、「賞味期限」が近い食品について、現状のオペレーションでは受取が難しい面もあり、様々な食品の受け取りを可能とするため、受取・配布オペレーションの改善について検討していく必要があります。

●フードバンクへの期待

企業はフードバンクの利用による地域社会貢献への期待が高く、今後フードバンク活動を進めていくための、強い原動力になると考えました。また、フードバンク利用によるごみ処理料金等のコスト削減への期待も高く、企業が負担感なくフードバンクへ提供できる方法を企業ヒアリングを通して調査していく必要があります。

事業内容（２）「フードバンク活用の手引」の作成

アンケート調査・分析の結果を用いて、「手引」を作成しました。対象は、主にフードバンクに興味はあるものの、内容についてよく知らない事業者向けとしました。しかし、一般の方が読んでわかるような内容に努めました。

作成期間：令和元年10月～12月

対象：主に食品関連企業

内容：「フードバンク活用ガイドブック」

- 1.食品にまつわる課題と現状
- 2.フードバンクってどんな活動？
- 3.フードバンクの効果とコスト
- 4.始める前に知りたい！担当からの質問
- 5.フードバンクに関わる人たちの声

仕様：カラー16ページ

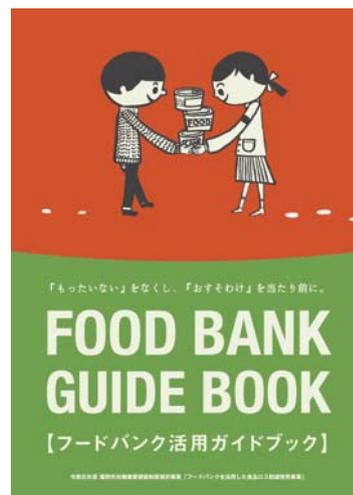
作成部数：約4,000部

<工夫した点>

- ・初めて読んだ方でもわかりやすい内容としました。
- ・フードバンクの仕組みについて説明する際、活用しやすいよう、見開き7～8ページをコピーして使用することを想定して構成しました。
- ・すでに食品提供をいただいている企業と、受取団体の生の声を掲載することで、提供の実際を感じられるようにしました。
- ・ホームページからダウンロードできるようにしました。

■福岡市環境局：<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/71692/1/foodbankguidebook.pdf>
20200210101408

■フードバンク福岡：https://www.fbfukuoka.net/CMS/wp-content/uploads/2020/01/161227_8-9.pdf



事業内容（3）「フードバンク活用の手引」を利用した説明会の開催

①集団説明会

開催日：令和2年2月5日(水) 14：00～16：00
 場所：電気ビル共創館カンファレンスC
 定員：80名

周知方法：①フードバンク活用に関するアンケート調査回答企業へ案内文送付
 ②ホームページによる案内（福岡市環境局・フードバンク福岡）
 ③プレスリリース
 ④案内ポスターの掲示、チラシの配布

内容：

「フードバンクをはじめよう～フードバンク活用ガイドブックを使って」

第1部 14：00～14：50

ごあいさつ 福岡市環境局事業系ごみ減量推進課
 フードバンク活用ガイドブックの説明

特定非営利活動法人フードバンク福岡 理事長 雪田 千春

第2部 15：00～16：00

パネルディスカッション「なぜフードバンクに食品提供を始めたのか？」

コーディネーター 認定NPO法人アカツキ 代表理事 永田賢介

パネリスト 株式会社唐人ベーカリー 専務取締役 桑野 暁

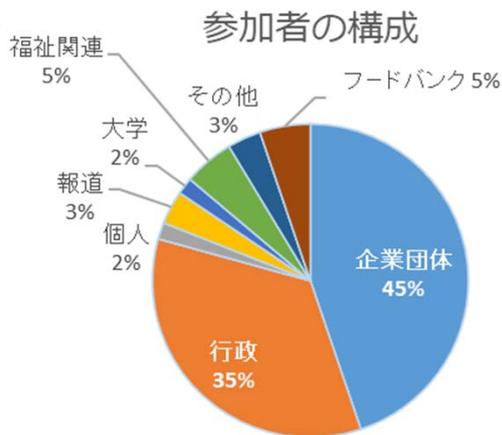
公益財団法人福岡市学校給食公社

総務部資源物資第一係長 納富 英明

特定非営利活動法人フードバンク福岡 理事長 雪田 千春

福岡市環境局事業系ごみ減量推進課長 城戸 裕子

参加人数：74名



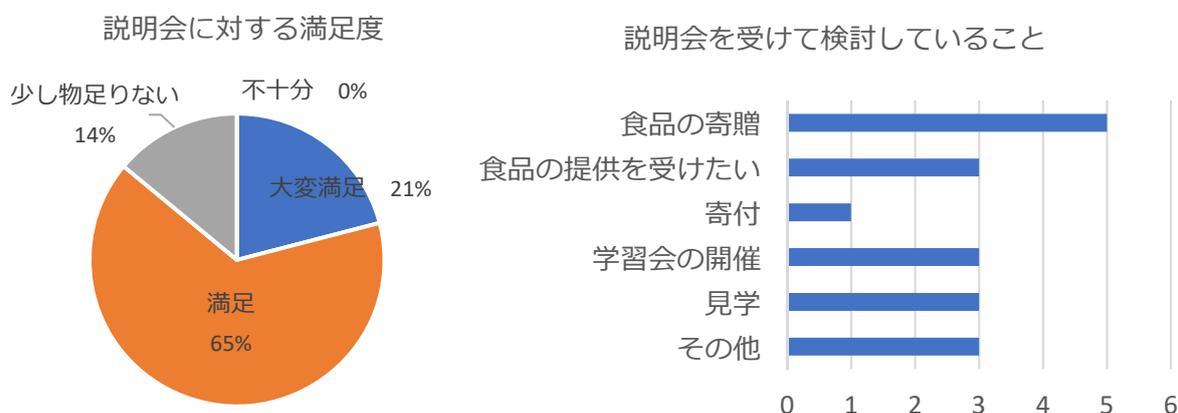
説明会の様子



説明会ポスター

集団説明会には多数の参加があり、フードバンクに興味を持っていただいていることが窺い知ることができました。パネルディスカッションでは、フードバンクに食品提供を始めるまでのきっかけや社内手続き、従業員の反応等を各パネラーに説明いただき、参加者がより自分事として考えられるよう工夫しました。パネルディスカッション後の質疑応答では、参加者から多くの質問を受け、フードバンクへの関心の高さを感じました。

参加者アンケート結果：説明会に対する満足度では、「大変満足及び満足」に86%の回答があり、概ね満足度が高く、個別での対応に向けて大きく期待を持つことができました。



②個別説明会

集団説明会の後、個別の企業に対する説明会を開催するため、企業側と打ち合わせをし、スケジュール化していたところでした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、個別説明会は中止となりました。なお、企業担当者とフードバンク福岡の事務レベルでのやり取りは始めており、食品提供に向けて調整中です。

6 担当者の声・事業者の声

(1) 事業者の声

①フードバンク活用に関するアンケート結果から抜粋

- ・非常に良い取り組みだと考えています。もっと広めてほしいです。
- ・フードバンクの活動と利用は大賛成です。今後さらに活動の範囲、利用の企業が増えますことを祈ります。

②「フードバンク活用の手引」を利用した説明会アンケートから抜粋

- ・地域に根付いた活動が持続できるように頑張ってください。
- ・こういった説明会は継続していただきたい。
- ・フードバンク福岡さんの取り組みをもっと知る機会が増えれば、川上と川下のマッチングに繋がると思います。ポテンシャルが十分にあると感じました。
- ・給食公社さんが、ここまでの取り組みを行っていることを知らなかったのが大変参考になりました。また、唐人ベーカリーさんの作業員さんの食べられるのに捨てる事の罪悪感から解放されたと言うメリットの話が興味深かったです。今日の話聞かせて頂いて、提供する企業側にも処理費の削減や社会貢献、社員の意識改革といった面でも、多くのメリットがあるし、今後もまだ他のメリットも見つかると感じましたので、フードバンクさん行政が一体となって提供側の企業が増えていくことを期待したいです。

(2) 担当者の声

- ・事業を進めるなかで、フードバンクへの協力をうたう「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行され、フードバンク活動がしやすくなりました。そうした背景も、市担当者から知ることができました。
- ・アンケート調査の自由記載欄にフードバンク活動への励ましのコメントをいただき、応援してくださる方々がいらっしやることを実感しました。
- ・本事業を実施したことで、アンケートや市担当者の企業訪問の際の意見などを総合的に分析し、フードバンクが活用されるための課題が明確となってきています。

7 令和2年度への展開

アンケート調査で明らかのように、食品関連企業がフードバンクを利用するためには、企業の課題を解消する必要があります。

また、令和元年度に施行された「食品ロスの削減の推進に関する法律」の影響から、今後は各企業における食品ロス発生抑制が更に働くことが予想されます。1企業当たりの食品提供量が減少する可能性もあり、安定的なフードバンク活動のため食品寄贈企業数の拡充が必要です。

また、食品企業においては多少の食品ロスは避けられないため、発生してしまった食品ロスをフードバンクで有効活用できることについて、啓発を行っていく必要もあります。

一方で、受取団体は増加傾向にあり、食品提供の時期や種類にも偏りがあるため、需給バランスや理想的な配送のオペレーションを整備する必要が出てきました。

これらの実態を踏まえ、令和2年度以降は、以下のとおり実施していきます。

■令和2年度（2年目の主な取組内容）

新規食品提供企業の拡大とそれに関する課題の把握を行います。

①食品提供量の定量確保のため、企業に対してヒアリングや説明会を実施し、新規開拓や継続提供促進を図るとともに、②食品受取団体の需要（量・種類など）や、スムーズな受け渡しを目指したアンケート調査を行い、受取に関するオペレーションの点検を行います。①、②により把握した課題を整理し、効果的なフードバンク活動普及啓発のための③アクション・プラン作成に向けた分析を行います。

*アクション・プランとは、食品提供企業の新規開拓や継続提供促進をはかるため、普及・啓発の方法や広報戦略、広報媒体・方法について、フードバンクが実施する具体的な行動計画です。

（共働の必要性）

・福岡市から企業の情報・現状や法令等の情報を受け取りながら、全体の進行をすることができます。

・福岡市と共働による調査であることから、企業の担当者だけでなく、企業全体で取り組む課題として認識されやすくなります。

・福岡市の課題でもある食品ロス削減を推進することができます。